

お盆に語ろうかい

大阪市廃止・特別区設置の是非を問う住民投票が現実味を帯びる中、私に何かできることはないかと考えていた。毎朝レポートを書き発信しているが、集まって語りあう「場」をもちたいと、1週間ほど前に写真左の案内をフェイスブックで流した。当日朝にも、再度「語ろうかい」と呼びかけた。

3~4人も集まればと思っていたが、お盆のモーレツな暑さのなか18人もの方が参加してくださった。想定外の喜びではあるが、それだけ危機感を感じている人が多いのだろう。

お盆に「大阪の今」を語ろうかい!?
15日(土) 2時から、ターネンビル2階にて。山田明からの呼びかけ。

この猛暑、もーショットのご辛抱と言いたいがい!?
今日15日14時からターネンビル2階で、語ろうかい!
山田明より。

はじめに、私からホットな話題として、昨日の大阪府市による「意見交換」会なるものを紹介した。気になるテーマとして、「区役所」は残るか、事態は大阪府による大阪市の乗っ取り、赤信号が出ない「大阪モデル」と住民投票などを提起した。どれだけ意見が出るか不安だったが、次から次へと手が上がり、示唆に富んだ情報や意見に耳を傾けた。5年前の住民投票の時と何が変わったのか、地域自治区の事務所と名ばかり「区役所」、大阪の特別区と東京23区との違い、「維新政治」とメディアなど、多くの論点が出され、90分が経過して休憩タイム。写真下はホワイトボードを使って、現在の24区の区役所と特別区の「区役所」などを説明するジャーナリストの和泉かよ子さん、カメラを構えるのは平松邦夫・元大阪市長、そして「浪速の経済人」中野雅司さん。この3人から、いつも多くのことを学んでいる。



休憩後は、より具体的な「戦術」に関わる行動提起も出された。阪南大の桜田照雄さんから、休憩前から続いて、維新「利権」構造と大阪市廃止について詳しい説明がなされた。桜田さんからは、カジノ問題だけでなく、大阪の政治と経済について学ぶことが多い。中央区で地道に活動されている藤原一郎さんから、署名活動や街角トークなどの経験から、地域ごとのターゲットをしばった宣伝などの提案があった。

マスコミで活躍されたジャーナリストから、視聴率競争に象徴されるテレビ界の現状について報告があり、放送局への「一斉デモ」という直接行動も提起された。維新政治にすり寄る大阪のテレビ界に対し、こうした行動も欠かせないのではないか。

とにかく、コロナ禍で大阪市廃止の住民投票に猛進する維新に対し、「コンナ(コロナ)ときに、また住民投票やるの」といった声を上げ続け、住民投票をやるなら「再びノー」を突き付ける活動を足もとから進めていきたい。29日にも、語ろうかい第2弾を予定。

(2020年8月16日)